

# 「学校給食費の完全無償化を伊勢崎市でも早く」 —新日本婦人の会が市長・教育長に陳情書提出、懇談

新日本婦人の会伊勢崎支部・境支部・赤堀あずま班は、ともに子どもたちの学校給食費無償化の運動を進めてきました。

5月7日には、「今年の夏前には給食無償化のロードマップを示したい」と議会答弁している臂市長と、教育委員会を代表する教育長に対して3項目の陳情書を提出し、懇談しました。日本共産党議員団が同席しました。

3項目は、「①学校給食費の早期完全無償化、②地産地消の野菜の利用を進める、③県が半額持つように県の制度化を」でした。

県内ではこの間、無償化の取組が大きく進み、伊勢崎市の対応に注目が集まっています。

新婦人伊勢崎支部の石原素子支部長は、「5月5日子ども日に華蔵寺公園で行った給食費無償化の署名行動では、署名したい人が列を作るほどの大きな反響があり、1時間足らずで198筆集まりました。伊勢崎市周辺の太田市、玉村町、みどり市は完全無償化に踏み切っています。また、この間、高崎市が来年度から第2子以降無償化、第1子1割補助という方針を発表し、今年2月の市長選で給食費無償化を公約に掲げた新市長が誕生した前橋市は中学生無償化を6月から実施することです。高校生世代までの医療費無料化では、伊勢崎市は県下で最も遅い実施となりました。給食費についてはそういうことの無いように、早急な実施を求めます。」と語りました。

臂市長は、「高崎市が実施の方針を出したことで、市長会として県に実施を強く迫ることができる条件がととのった。始めると後戻りできない施策なので、予算を確保できるかどうかをしっかりと検証しながら進めたい。」と語りました。三好教育長も「これまでも努力してきたが、今後も地産地消を大いに進めたい。」と答えました。

(写真右から三好教育長、臂市長、石井境支部長、石原伊勢崎支部長)